

# 道徳成績評価 教員に戸惑い

「教科外の活動」として成績評価の対象外だった道徳は、小学校で2018年度から、中学校で19年度から正式教科に格上げされる。文部科学省は成績評価を数値ではなく「記述式」としたが、子どもたちの心の内面を成績として評価することに、教員たちの戸惑いは消えていない。

## ●困難乗り越える話

東京都荒川区立第二瑞光小で昨秋、保護者や地域の人たちに公開された道徳の授業。1年生の教材は「がんばれボボ」だった。タンボボの綿毛のボボは家族の元を離れ飛び立ったが、スズメにつつかれてたどり着いたのは岩の上。暑くなったり寒くなったりする困難を乗り越え、再び飛んで野原できれいな花を咲かせる物語だ。

## 正式教科に格上げ

「おかあさん」と言いながら(家族の元を)飛び出したボボはどんな気持ちだった?。担任の女性教諭が質問を投げかけると子どもたちは次々に手を挙げ、黒板の前に出てきて発表した。「かなしい」「さみしい」「うん、みくびつ……。教諭は子どもたちの言葉に共感しながら一つ一つを黒板に書き留めていった。

を育てるのが狙いだ。授業の終盤、教諭は子どもたちがマラソン大会について書いた作文を紹介した。苦しくて最後まで走りきって達成感を味わった子どもの文を読み上げ「みんなはボボの勉強をしながら、マラソンの練習を頑張って走り出したね」と締めくくった。参加していた保護者は「1年生の道徳は何をやるのかと思っていました。が、楽しそうに学んでいてほっとした」と話した。

## ●教科外で58年登場

「道徳」は1958年、教科外の活動として始まった。授業時間は年35時間(週1時間)が標準。文科省は従来の道徳が物語の登場人物の心情理解に偏っていたとして、15年3月に「考え、議論する道徳」への転換を掲げて学習指導要領を改定し、正式教科化を決めた。評価方法については16年7月、数値ではなく記述式▽個々の徳目(ここではなく大きくくりなまとまり▽他の

子どもとの優劣ではなく成長した点を受け止めて励ます個人評価」とした。一個々の子どもの考え方や内面を成績評価していいの進め方について研究するグループが「道徳の教科化を考える会」だ。代表を務める東京都東村山市立秋津東小の宮澤弘道教諭(39)が教育学者や保護者、文化人に呼びかけて発足し、勉強会を重ねてきた。

## ●意見画一化の傾向

道徳の授業は「思いやり」「誠実」「家族愛」など徳目が設けられている。宮澤教諭によると、教材の話は最後まで読み終えた後に出てくる子どもたちの意見は、教材の価値観に沿って画一化したものになりがちだという。教材が期待している答えを子どもたちが探すからだ。

読み、その度に意見を出し合う「分断読み」と、教材を最後まで読まずに途中で切った意見を出し合う「中断読み」があった。「がんばれボボ」に例えるなら、家族と離れた場面▽岩の上の場面▽結末―と物語の途中で一旦読むのをやめてボボの気持ちを考えて、自分たちどうするかを考えたりするのが「分断読み」で、岩の上の場面で読むのをやめて結末まで読まず、子どもたちが意見を出してもう一つの「中断読み」だ。教員はその意見を一つの方向性にまとめようとするのではなく、多様な意見があることを子どもたちに伝える。

宮澤教諭は「分断読みは途中で読まざる意見が出るが、結末を読めば教材の価値観に沿った意見になってしまいがち。中断読みは多様な意見が出て、その多様性を認め合うことができるので、ベターな方法だ」と話す。

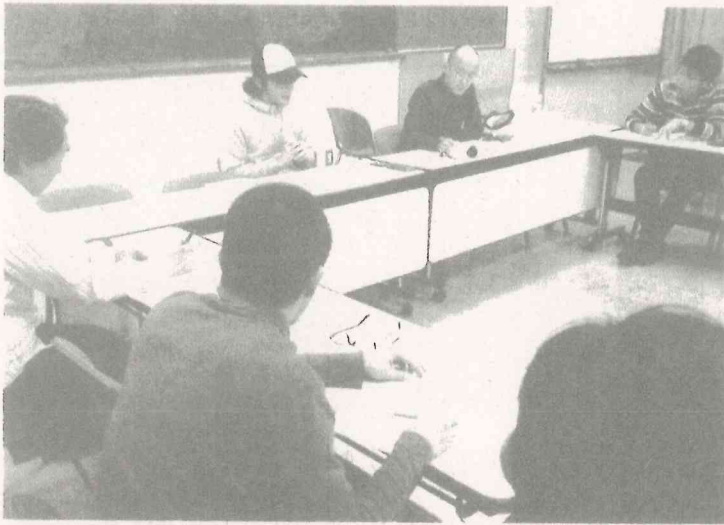
評価については、宮澤教諭は「よりよい方向性が見えてこない。子どもの内面を評価することの問題は考え続けたいといけない」と話した。●「業務増え困難」現場の教員たちはどのように受け止めているのか。東京都杉並区の小学校に勤める女性教諭(29)は「既に総合的な学習の時間や外国語活動など指導要領には所見欄がたくさんあるのに、道徳の評価までもが加わると業務が増える物理的に難しいのではないかと話した。また、東村山市内の小学校に勤める男性教諭(30)は「良い悪いのラインを誰かが決め、その価値観を子どもたちの内面に反映させるのは怖い」と危惧する。

授業の主題は「勤勉努力」。自分がやらなければならぬことはやり遂げようとする心

中ではさまざまな意見が出るが、結末を読めば教材の価値観に沿った意見になってしまいがち。中断読みは多様な意見が出て、その多様性を認め合うことができるので、ベターな方法だ」と話す。

評価については、宮澤教諭は「よりよい方向性が見えてこない。子どもの内面を評価することの問題は考え続けたいといけない」と話した。●「業務増え困難」現場の教員たちはどのように受け止めているのか。東京都杉並区の小学校に勤める女性教諭(29)は「既に総合的な学習の時間や外国語活動など指導要領には所見欄がたくさんあるのに、道徳の評価までもが加わると業務が増える物理的に難しいのではないかと話した。また、東村山市内の小学校に勤める男性教諭(30)は「良い悪いのラインを誰かが決め、その価値観を子どもたちの内面に反映させるのは怖い」と危惧する。

神奈川県藤沢市内の小中学校に勤務する女性教諭(35)は「徳目とは教えて優しくないものではない。道徳の授業に評価の目が入ると、子どもたちは本音が言えず、大人が本音を言えない場所を増やしてしまっているように思う」と話した。【金秀蓮】



「道徳の教科化を考える会」は学習会で子どもの内面を評価する難しさを話し合っている。東京都国分寺市の国分寺労働会館で

## 小中教員7割以上教科化に反対

全国の小中学校教員の7割以上が道徳の教科化に反対している。4教育系大学の調査でそんな結果が出ている。調査は北海道教育大▽愛知教育大▽東京学芸大▽大阪教育大―が2015年8、9月、全国の公立小中学校の教員を対象に教育改革に対する

賛否などを問い、5,0073人(有効回収率53.9%)から回答を得た。道徳の教科化に「反対」とどちらかといえば「反対」と答えたのは小78.9%、中79.9%、高56.3%に達した。調査の研究代表を務めた子安潤・愛知教育大教授(教育学方法学)は「現場の教員に直

接話を聞くと、評価することへの懸念が強い。その理由は大きく分けて二つあり、一つは評価を記述することによる業務負担の増加。もう一つは善悪を一方的に決め児童生徒の内面に踏み込んで評価することへの恐れだ」と話した。子安教授は道徳の教科化に

ついて「今まで以上に特定の徳目へ児童生徒の考えを誘導する可能性が危惧される。文科省は『読む道徳』から『考える道徳』への転換を促しているが、教材の筋立ては決まっているので、その範囲を超えた議論にはならない」と指摘した。